

社会福祉法人松戸市社会福祉協議会
令和6年度第2回松戸市居場所づくり全体会議要旨

1 日 時 令和6年7月12日(金) 午後1時30分～2時30分

2 会 場 松戸市社会福祉協議会 第1・2ボランティア室

3 議 事

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 会長挨拶

4. 報 告

令和5年度「まつどDEつながるステーション」の活動等について

5. 議 題

令和6年度「まつどDEつながるステーション」の承認・活動費の支出について
(常盤平団地地区)

6. その他

4 出 席 者

(1) 出席委員(9名)

会長	小川 早苗	松戸市社会福祉協議会 会長
副会長	恩田 忠治	松戸市町会・自治会連合会 会長
委員	町山 雅則	松戸市町会・自治会連合会 副会長
委員	平川 茂光	松戸市民生児童委員協議会 会長
委員	梶原 栄治	松戸市民生児童委員協議会 副会長
委員	山崎 恵	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 理事
委員	松村 大地	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 理事
委員	伊東 朱美	松戸市総合政策部 部長
委員	井之浦 太郎	松戸市生涯学習部 部長

(2) 出席機関(7名)

松戸市総合政策部地域共生課

(3) 事務局(8名)

松戸市社会福祉協議会

5 議事内容

■令和5年度「まつど DE つながるステーション」の活動等について

松戸市地域共生課より説明。

各委員よりいただいたご質問の概要

【質問1】

令和6年度の取り組みとして、若い世代が参加できるよう、市内の高校や大学との連携を引き続き進めるとあったが、連携の現状がわかるものがあつたら共有したい。

【回答1】

令和5年度は、5校125名がボランティアとして参加。令和6年度はこれから実施するものも含めて現時点で5校100名参加との報告があつた。

労力として若い人に参加してもらうのではなく、この活動をとおして若い人に何か学び取ってもらえればよいと思っている。

【質問2】

生徒が参加する場合、調整やコーディネート、当日の割り振りは実行委員会と地域共生課のどちらがやっているのか。実行委員会の負担感にも関連すると思うので聞きたい。

【回答2】

学校とのやりとりは地域共生課でしている。生徒会やボランティア部会からの参加もあり、委員会が立ち上がっているところもある。どんな生徒が何名参加するか実行委員会と情報共有をしている。

学校とのスケジュールに関することは地域共生課でやっている。どこに生徒が入るかは実行委員会の会議等で共有してもらい、地域共生課は資料を作成するなどサポートをしている。

地域や実行委員の方と学校がすでにつながりがあるところは委員から声を掛けている。

各委員よりいただいた感想・ご意見の概要

【感想・ご意見】

担い手を増やしていくこと、関わり方の多様性やどのくらい関わられるかという選択肢もあると思う。いろんな方がどういう役割を広げていくか一緒に考えていければよいと思う。

■令和6年度「まつど DE つながるステーション」の承認・活動費の支出について

(常盤平団地地区)

松戸市地域共生課より説明。異議なしとして承認された。

常盤平団地地区

常盤平団地地区ステーションの開催概要

ステーション名	常盤平団地地区「まつど DE つながるステーション」
---------	----------------------------

目的	ステーション活動を通じ、地域において、多世代が交流する機会を増やす。
期間	令和6年8月～令和7年3月(毎月開催予定)
開催場所	常盤平中央商店会店舗および望のひろば 等
開催内容	<ul style="list-style-type: none"> ・世代を問わずに集える場を提供 ・多世代間の交流を図るイベント実施 ・常盤平団地地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	地域の高齢者や子ども 等
参加者人数	1回 50人程度
運営者人数	1回 10人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS／HP／その他(口コミ、各委員の活動での告知)
助成金申請額	320,000円

各委員よりいただいたご質問の概要

【質問1】

予算計画の協力者への謝礼について、具体的な内容が知りたい。

【回答1】

実行委員会の以外の方でプログラムなどに協力していただける方を協力者としている。謝礼金の金額、対象、人数、移動に係る費用など具体的な内容については実行委員会で検討中である。

【質問2】

多世代の参加を想定しているが、子ども向けの広報はどのように考えているのか。

【回答2】

第1回目の開催については、近隣の小学校等にチラシを配布する事を予定している。

6 その他①

多世代まるごとの居場所づくり「まつど DE つながるステーション」チラシについて
松戸市地域共生課より説明。

各委員よりいただいたご質問の概要

【質問1】

チラシの配布先はどこか。

【回答1】

チラシは市のホームページからもダウンロードでき、日本語、英語、中国語、ベトナム語でみ

ることができる。

つながるステーションの会場内でもチラシの配布を始めた。二次元コードを読み取ると次回の案内が掲載されている。チラシを活用することによってひとつの地区だけでなく、近隣につながるステーションの周知ができる。

【質問 2】

他の事業をみてもその後が続かないことが多いが今後の話が出てこない。二次元コードで調べて、英語、中国語、ベトナム語の問い合わせがあったとき対応はどのようにするのか。各地区でできるのか。地域共生課で対応するシステムを作らないといけないし、きちんとしていかないと継続するのは無理ではないか。

【回答 2】

各地区実行委員会か、地域共生課に問い合わせさせていただくようになっている。実行委員会で対応できない場合は地域共生課を案内してもらうなど、地域共生課で対応したい。

【質問 3】

チラシの活用はどのようにするのか。

【回答 3】

学校の先生方に配り、気になる児童に渡してもらうようお願いしている。つながるステーションの情報コーナーにも置かせてもらっている。

これからは日本語が難しい方への対応が増えていくことが想定され、地域共生課としてはできるかぎり対応したいと思っている。実行委員会と地域共生課でスマートフォンの翻訳機能を活用しながら身振り手振りで説明している。

各委員よりいただいた感想・ご意見の概要

【感想・ご意見 1】

チラシを作ったのだから、こうしたことをやっていますよと情報発信をしないといけない。新しいことをやったのであれば松戸市を PR する意味でも有効に使ったらどうか。

【感想・ご意見 2】

松戸市の事業はとてもよいが PR が不足しているので、やってないように思われているのが反省点である。SDGs の誰ひとり取り残さないといった点でも優しい社会を目指しているので、いろいろな方が入っていけるようしっかりとやらなければいけないと思っている。つなげていく、続けていくということが大事なのでしっかりとやっていきたい。

【感想・ご意見 3】

いろいろな方が来た時にその方がどういったものを抱えているのか限られた時間では難しいが、開催する側がアンテナを立てていくのはどうかという話が実行委員

会の中でできるとよいと思った。

【感想・ご意見 4】

アンケートを受け取って満足して終わってしまう可能性がある。例えば外国の人が来た後どうするのかもう少し議論する余地が出てくるのではないかと考えている。

多言語のものを作るのもよいが、車椅子の方、手話が必要な方も同じで実際に現場でどういうことが起きてどうすべきなのか課題意識を持ち、実行委員会の中で議論することも大事だと思う。

6 その他②

今後の予定

第3回松戸市居場所づくり全体会議の開催については改めて連絡させていただく。